

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

北里大学上部消化管外科での研修を終えて

福島県立医科大学消化管外科

松石 彬

この度、日本臨床外科学会国内研修プログラムに参加し、2024年9月2日から9月29日までの4週間、北里大学上部消化管外科で研修をさせていただきました。

医師8年目となり、大学卒業後より福島の地で研修を行ってまいりました。県外の施設での診療や手術手技を学び、所属施設との違いを理解することで自分の外科医としての技術を磨きたいと考え、今回の国内研修を希望させていただきました。

今後は上部消化管外科を専門にしていく予定であり、以前よりウェブセミナーなどで講演を拝聴しており、胃癌の症例数が多い北里大学上部消化管外科の比企直樹教授のもとで学びたいと考え、北里大学上部消化管外科を希望させていただきました。

研修は毎日手術に助手として参加させていただき、胃切除に関してはLDG・LPPG・RDG・RPG・癌LECS・LECS、食道切除に関してはRAE・LAE、十二指腸に関してはD-LECSの手術に入らせていただきました。

胃切除については非常に定型化されており、当院の胃切除の手技と違ふ勉強になったと思った点は、オーガンリトラクターを用いて展開を行っていることでした。オーガンリトラクターを使用した展開方法は非常に効率的で、助手の手が一つ空き他の展開のサポートができるという利点があり、当院でも導入を検討したいと思いました。食道切除については、頸部食道胃管吻合を当院では三角吻合を行っておりますが、全層Gambeeでの手縫いを行っておりました。

さらに、D-LECSについては、当院ではまだ数例しか実施していませんでしたが、Treizt靱帯付近の腫瘍でもKocher授動をすることによってD-LECSすることが可能になることや、内視鏡操作時に胃を直線化することで内視鏡操作を容易にする工夫など、非常に有益な知見を得ることができました。

どの手術を受けた患者も合併症なく帰宅しており、毎日手術をやっているにも関わらず入院患者の数は変わらないことに驚きを感じました。

北里大学では数多くの臨床研究が行われており、外科治療における最新の知見や技術の導入が積極的に進められていました。研修中に、臨床研究に基づいた治療法の選択などを目の当たりにすることで、常に最新の知識と技術を取り入れた診療が行われていることを強く感じました。これにより、今後自分もエビデンスに基づいた医療を提供するために、日々の勉強と自己研鑽が必要であることを再認識しました。

総じて、北里大学病院の上部消化管外科での研修は、私にとって技術的な成長を大きく促す経験となりました。高度な外科技術や最新の治療方針に触れることで、外科医としての自分のスキルをさらに高めるための刺激を受け、今後の診療において、より質の高い医療を提供できるよう精進していきたいと強く思いました。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会をいただきました日本臨床外科学会会長の万代恭嗣先生、国内外科研修委員会委員長の高山忠利先生、また研修を引き受けてくださりご指導承りました北里大学上部消化管外科の比企直樹教授をはじめとした、北里大学上部消化管外科のスタッフの皆様にも深く御礼申し上げます。4週間という長期の研修をお許しくださった福島県立医科大学消化管外科

学講座の河野浩二教授，同講座の医局の先生方にもこの場を借りて感謝を申し上げます。

